

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		09 05 08	中期総合計画主要施策番号		2-03,3-08		担当課	部・課	農政部 農地整備課	
事業名		地すべり対策事業(公共[防災])				内線		3154		
						E-mail		nochi@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	地すべり等防止法第3条により指定された地すべり防止区域において対策工事を実施し、農地・農業用施設、人家、公共施設等に及ぶ地すべり災害を未然に防止し、農村地域の安全性を確保するとともに国土保全及び民政の安定を図る。								
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 県内は地形が急峻で、脆弱な地質構造をしており、近年の異常な集中豪雨や、地域の高齢化により農地の荒廃が進行し、地すべりの発生する危険性が高まっている。								
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] 県内は地形が急峻で、脆弱な地質構造をしているため、豪雨や融雪により地すべりが発生する可能性が高い箇所が多い。								
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] 地すべりの危険性が高い箇所において、水抜きボーリングや排水路等の地すべり防止施設を設置するとともに既存施設の補修による機能回復を図り、地すべり被害から地域全体を保全する。								
	事業内容	地すべり防止施設(水抜きボーリング・排水路・土止・堰堤・杭打等)を整備する。 ・地すべり対策事業(補助率:【国】50%【県】50%)								
実施期間	S35 ~		根拠法令等	地すべり等防止法第7条 地すべり防止事業実施要綱						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価		
	地すべり災害を防止するために対策工事を行う等災害に強い農村づくりを進める。 「第6次長野県土地改良長期計画」における期間内整備目標(地すべり防止施設の補修箇所数20箇所(H20~H24))の達成を目指す。		平成20年度整備目標は4箇所とする。 (目標に対する進捗20%)			平成20年度は5箇所施設補修を完了した。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下		
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	593,943	430,500	468,300	国庫・県単	公共		
	決 算 額 (B)		千円	599,777	444,322		実施方法	直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	30,888	22,161	7,150	歳出節別内訳等	予算現額(最終予算+繰越額等) 541,890 1地区あたりの平均事業期間 7.5年		
	概 算 人件費	従事する職員数	人	8.20	9.30	12.60	(単位:千円)			
概算事業費 (B(H21はA)+C)		千円	599,777	444,322	468,300					
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	事業実施地区数		地区	19	15	15	平成20年度概成 4地区			
	地すべり防止施設補修箇所数		箇所		5	8				
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・16年台風23号、18年7月豪雨、19年台風4号等の集中豪雨により地すべり災害が発生しているため、地域の要望は強い。 ・地すべり等防止法により施設整備は県が行うものとされている。 ・防止施設の整備が及び施設補修が概ね計画どおり実施されている。 ・計画の見直しを図りながら事業内容の精査に取り組んでいる。			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		・既存の地すべり防止施設の機能低下が進行しているため、今後も計画的に施設補修を推進し、災害に強い農村環境を整備していく必要がある。								